

九州・沖縄地区 2025 年の休廃業・解散、 6,180 件 過去 10 年での最多更新

「黒字」休廃業の割合、過去最低の 50.4%
中小零細の「静かな退場」広がる

九州・沖縄「休廃業・解散」動向調査(2025 年)



本件照会先

秋山 進（調査担当）
帝国データバンク
福岡支店情報部
092-738-7779(直通)
tdb.fukuoka@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/01/23

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2025 年に九州・沖縄地区で休業・廃業、解散した企業は 6,180 件となった。年間で最多だった前年(6,174 件)から 0.1%増加し、3 年連続で前年を上回り、過去 10 年での最多を更新した。

休廃業した企業のうち、直近損益で「黒字」の企業が調査開始以来最低となる 50.4%となった。資本金別では資本金「100-1000 万円未満」の割合が最も高く(48.8%)、コロナ禍前を上回る水準で推移するなど、中小零細企業の「静かな退場」が水面下で進行している。

株式会社帝国データバンクは、2025 年に発生した企業の休廃業・解散動向について調査・分析を行った。

- 帝国データバンクが調査・保有する企業データベースのほか、各種法人データベースを基に集計
- 「休廃業・解散企業」とは、倒産(法的整理)を除き、特段の手続きを取らずに企業活動が停止した状態を確認(休廃業)、もしくは商業登記等で解散(但し「みなし解散」を除く)を確認した企業の総称
- 調査時点での休廃業・解散状態を確認したもので、将来的な企業活動の再開を否定するものではない。また、休廃業・解散後に法的整理へ移行した場合は、倒産件数として再集計する場合もある

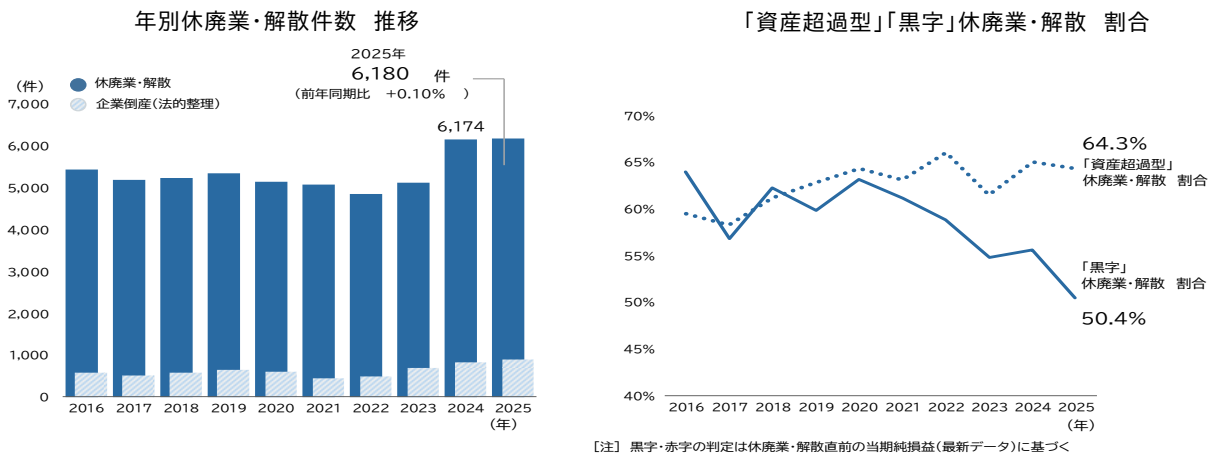
[注] X年の休廃業・解散率 = X 年の休廃業・解散件数 / (X-1) 年 12 月時点企業数

企業の休廃業・解散、3年連続増加 「黒字」過去最低の50.4%

2025年に九州・沖縄地区で休業・廃業、解散を行った企業（個人事業主を含む、以下「休廃業」）は6,180件となった。年間で最多だった前年（6,174件）から0.1%増加し、3年連続で前年を上回り、過去10年での最多を更新した。

2025年に休廃業となった企業のうち、保有資産の総額が債務を上回る状態で休廃業した件数＝「資産超過型」の割合は64.3%となり、2年ぶりに前年を下回った。また、休廃業する直前期の決算で当期純損益が「黒字」だった割合は50.4%となった。2016年（64.0%）をピークに2年ぶりに低下し、遡及可能な2016年以降で最低となった。この結果、「資産超過」状態かつ当期純損益が「黒字」となった企業の割合は17.2%となり、2年連続で低下した。2025年の休廃業・解散動向は総じて、足元の物価高や人件費などのコスト上昇を受け、損益が悪化した企業の割合が高まった点が特徴といえる。

企業の休廃業・解散件数 推移



中小零細事業者の「静かな退場」増加傾向

資本金が判明した休廃業・解散企業（個人事業主を含む）をみると、2025年は資本金「100-1000万円未満」が最も多く、48.8%を占めた。前年（47.6%）を1.2pt上回ったほか、これまで最も高かった2023年（48.2%）も上回った。資本金「100万円未満」（11.1%）も年々上昇傾向が続き、2025年は資本金1000万円未満の企業による休廃業・解散が半数を超えた。総じて、2025年の休廃業・解散は、小規模・零細規模の企業を中心に多く発生した1年となった。

2020年から2022年にかけて、企業の休廃業・解散件数は持続化給付金や雇用調整助成金など「給付」による手厚い資金繰り支援策が功を奏し、コロナ禍の厳しい経営環境下でも抑制された水準で推移してきた。しかし、2023年以降はこれらの支援策が徐々に縮小されたほか、電気代などエネルギー価格をはじめとした物価高、代表者の高齢化や後継者問題、人手不足など四重・五重の経営課題が押し寄せた。

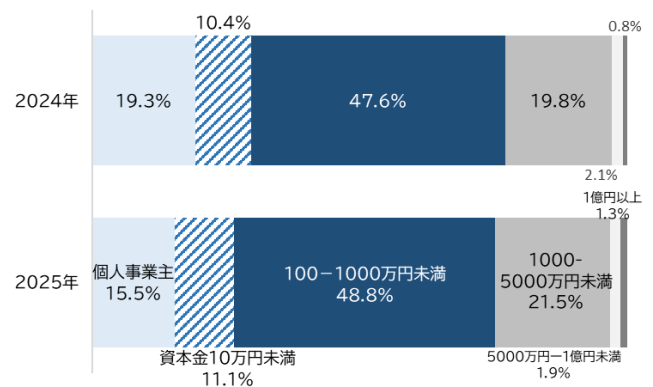
こうした厳しい事業環境のなかで、事業再生ガイドラインをはじめ、近時は経営者の再挑戦や、引退後の生活基盤の保証などを目的とした「円満な廃業」を後押しする動きが進み、官民による廃業支援が充実してきた。ただ、自社の事業や業界全体の将来性が見通せず、現状のままではさらなる業績悪化が避けられないと判断した中小零細企業を中心に、水面下で手元資金に余裕があるうちに会社を畳む「静かな退場（廃業）」を決断した可能性がある。

休廃業・解散による影響

休廃業・解散による影響

		2024年	2025年
休 廃 業 ・ 解 散	休廃業・解散件数(九州・全業種)	(件) 6,174	6,180
	前年比	(%) +20.2%	+0.1%
	対「倒産」倍率	(単位:倍) 7.37	6.94
企 業 倒 産	企業倒産件数(九州)	(件) 838	890
	前年比	(%) +18.4	+6.2%

資本金別割合



「80代以上」の割合、過去最高 休廃業企業の「高齢化」加速

休廃業・解散時の経営者年齢は、2025年平均で71.1歳となった。前年に続き4年連続で70代となったほか、前年から0.1歳上昇し、過去最高を更新した。最も休廃業が多い年齢も、2025年は77歳と、前年からは横ばい、9年前(2016年:67歳)からは10歳上昇するなど、休廃業・解散を決断する経営者の年齢層は上昇傾向が続いた。

年代別にみると、「70代」「50代」「30代」で前年から割合が上昇した。このうち、「70代」(42.9%)の割合は年代別で最も高く、2016年から約1.5倍に増加し、過去2番目の水準となった。「50代」(9.5%)は3年連続、「30代」(1.3%)は2年連続で上昇した。このほか、「80代以上」(20.6%)は前年と横ばいながら、2024年と並び、過去最高となった。この結果、70代以上が占める割合は63.5%、60代以上では85.5%を占めるなど、休廃業・解散を決断する経営者の高齢化が加速した。体力面からも後継者への事業承継活動が困難となり、休廃業・解散を余儀なくされた可能性がある。

このほか、「40代」(3.7%)など若手経営者の休廃業・解散は前年から低下した。

代表者年代別の休廃業・解散動向(2024-25年)

代表者年代別 休廃業・解散 割合		2024年	2025年	24年比
休廃業・解散時	代表者平均年齢	71.0歳	71.1歳	+0.1歳
休廃業・解散時	最多年齢層 (ピーク年齢)	77	77	±0歳
年 代 別	30代未満	0.1%	0.1%	±0.0
	30代	0.8%	1.3%	+0.5
	40代	4.5%	3.7%	△0.8
	50代	8.6%	9.5%	+0.9
	60代	24.0%	22.0%	△2.0
	70代	41.3%	42.9%	+1.6
	80代以上	20.6%	20.6%	±0.0

3 県で「減少」 佐賀県が唯一 2 ケタ増

県別の発生状況では、「福岡県」「佐賀県」「長崎県」「熊本県」「沖縄県」の5県で増加、「大分県」「宮崎県」「鹿児島県」の3県で減少した。件数ベースで最も多いのは「福岡県」の2,033件で、九州で唯一2,000件を超えた。次いで「熊本県」(876件)、「鹿児島県」(689件)、「長崎県」(586件)、「宮崎県」(577件)、「沖縄県」(544件)、「大分県」(508件)、「佐賀県」(367件)と続いた。総じて、企業総数に比例して休廃業数も多い大都市圏での発生が目立った。

前年からの増加率が最も高かった県は「佐賀県」で、前年比16.9%の増加となった。前年比2ケタの増加は全国でも佐賀県のみで、前年に全国で最も少なかった反動増とみられる。このほか、「長崎県」(前年比4.1%増)、「沖縄県」(同2.4%増)、「熊本県」(同1.5%増)、「福岡県」(同1.4%増)で増加し、総じて地方部での増加が目立った。

他方で、前年から最も減少したのは「鹿児島県」(同9.5%減)で、「大分県」(同5.0%減)、「宮崎県」(同4.2%減)の3県で減少した。

(都道府県別の詳細は7ページに掲載)

都道府県別の休廃業・解散件数

県別 件数推移

県別	2024年	2025年	前年比
福岡県	2,005	2,033	+1.4%
佐賀県	314	367	+16.9%
長崎県	563	586	+4.1%
熊本県	863	876	+1.5%
大分県	535	508	△5.0%
宮崎県	602	577	△4.2%
鹿児島県	761	689	△9.5%
沖縄県	531	544	+2.4%
九州	6,174	6,180	+0.1%

県別 件数増減上位

件数上位	2024年	2025年	前年比
福岡県	2,005	2,033	+1.4%
熊本県	863	876	+1.5%
鹿児島県	761	689	△9.5%
長崎県	563	586	+4.1%
宮崎県	602	577	△4.2%
沖縄県	531	544	+2.4%
大分県	535	508	△5.0%
佐賀県	314	367	+16.9%

増加率上位	2024年	2025年	前年比
佐賀県	314	367	+16.9%
長崎県	563	586	+4.1%
沖縄県	531	544	+2.4%
熊本県	863	876	+1.5%
福岡県	2,005	2,033	+1.4%
宮崎県	602	577	△4.2%
大分県	535	508	△5.0%
鹿児島県	761	689	△9.5%

5 業種が増加 件数最多は「建設業」

業種別にみると、その他(詳細不明を含む)を除く5業種が前年から増加した。最も件数が多い「建設業」(918件)は、前年から4.4%減少し、過去10年では、最多の2016年(975件)、2024年(960件)に次いで3番目に多かった。前年からの増加率が最も高いのは「製造業」(244件、前年同期比22.6%増)で、「卸売業」(337件、同7.3%増)が続いた。「運輸・通信業」(70件、同6.1%増)は、トラック輸送などを中心とした運輸業での増加が目立ち、過去10年では5番目に多く、4年ぶりに70件台となった。「製造業」も、2016年(229件)を上回って過去10年で最多件数だった。

「無床診療所」の廃業が急増 後継者難が響く

業種を細かくみると、前年から最も増加率が高かったのは「無床診療所」(113件、前年比32.9%増)で、前年比3割を超える増加となった。コロナ関連補助金や診療報酬特例の終了による影響に加え、診療報酬が原則2年ごとの改定となるなか、物価・人件費・光熱費の上昇などのコスト増により収益が圧迫されているほか、経営者の高齢化と後継者不在など、先行き不安から廃業を選択するケースが多かったとみられる。

無床診療所に次いで「電気配線工事業」(62件、同24.0%増)も、前年から大幅に増加した。人手不足が深刻で、人材確保が困難ななか、高齢化によりベテランの引退も進行しているため、人材確保・流出防止策としての人件費負担増に加え、原材料・燃料等の高騰も収益を圧迫している。また、後継者不在も追い打ちをかけ、経営体力の乏しい中小電気配線工事者の休廃業・解散が増加した要因とみられる。

最も減少率が高い業種は「木造建築工事」(136件、同21.4%減)だった。「建築工事業(木造建築工事業を除く)」(63件、同19.2%減)、「土木建築サービス業」(72件、同18.2%減)が続いた。

業種別の休廃業・解散動向

業種別	業種別 件数推移			業種別詳細 件数			
	2024年	2025年	24年比 (前年同期比)	業種詳細	2024年 件数	2025年 件数	前年比
社数合計	6,174	6,180	+0.1%	1 非営利団体	167	180	+7.8%
建設業	960	918	△4.4%	2 土木工事業(造園工事業を除く)	133	152	+14.3%
製造業	199	244	+22.6%	3 木造建築工事業	173	136	▲21.4%
卸売業	314	337	+7.3%	4 無床診療所	85	113	+32.9%
小売業	480	492	+2.5%	5 土木建築サービス業	88	72	▲18.2%
運輸・通信業	66	70	+6.1%	6 不動産代理業・仲介業	83	69	▲16.9%
サービス業	866	902	+4.2%	7 建築工事業(木造建築工事業を除く)	78	63	▲19.2%
不動産業	215	198	△7.9%	8 電気配線工事業	50	62	+24.0%
その他の産業	3,074	3,019	△1.8%	9 内装工事業	53	45	▲15.1%
				10 貸事務所業	40	41	+2.5%

[注]「その他の産業」は、集計時点で業種が判然としない企業を含む

[注]母数となる休廃業・解散件数が40社以上の業種が対象

中小零細企業で“ひっそり”事業を畳む「静かな退場」増加へ

2025年の休廃業・解散動向は3年連続で前年を上回り、年間では過去10年で最多を更新した。年間で890件となった企業倒産(2025年1-12月)を合わせると、年間7,000社を超える企業が市場から退出した計算となる。休廃業・解散では、平常時であれば安定した事業継続が可能な「資産超過」の割合が低下したほか、損益面で「黒字」の割合も過去最低となった。なかでも、特に中小零細規模の企業で休廃業・解散を選択するケースが増えるなど、2024年と比べると休廃業・解散の「質」の変化もみられた。急速に進む物価高や人手不足によるコスト増に加え、設備の老朽化や後継者難といった経営面での課題も背景に、ひっそりと事業を畳む中小零細規模の企業が増加している。

足元では、中小企業支援の軸足が「資金繰り」から、抜本的な「事業再生」へと変化するなかで、M&Aなどを活用して事業を第三者に引き継ぐ「前向きな廃業」の考え方が広まり、業界大手の企業が自主廃業を決断するといった事例も出始めている。他方で、原材料や人件費の高騰で収益性が極端に低く、老朽化した設備の更新もままならないといった零細企業では、代表者の体調不良や機械の故障を「潮時」と考え事業を畳む、先行き悲観の「あきらめ」による廃業もみられた。収益力が厳しい中小企業では「自力での事業継続」「円満な廃業」か、将来を見据えた経営判断を迫られるなか、比較的経営体力に余力のある中小企業が手厚いサポートを受けて廃業を回避できる選択肢がある一方、厳しい経営環境下にある零細企業では支援の輪に入ることができず、価値ある事業や経営資産を有しながらひっそりと市場から姿を消す「二極化」が、今後より鮮明となるだろう。

総じて、2026年は、人手不足の解消や後継者の選定といった既存課題に加え、利上げによる借入金の利払い負担増といった局面に直面するなど、経営環境は一層厳しさを増していく。業績回復や「筋肉質」な収益基盤への再構築が遅れた企業や、後継者問題や事業改革などビジネスモデルに課題を多く抱えたままの零細企業を中心に、退職金の支払いなど企業体力に余力があるうちに、周囲に悟られることなくひっそり会社をたたむ「静かな退場」が2025年以上に増加する可能性がある。

統計データ
都道府県別 休廃業・解散件数 推移

単位:件

都道府県	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	前年比
北海道	2,104	2,126	2,252	2,715	2,566	△5.5%
青森県	660	512	524	564	587	+4.1%
岩手県	449	418	472	505	511	+1.2%
宮城県	825	810	939	1,036	1,019	△1.6%
秋田県	361	323	356	564	435	△22.9%
山形県	490	423	470	527	552	+4.7%
福島県	826	785	803	871	909	+4.4%
茨城県	950	1,026	1,079	1,257	1,155	△8.1%
栃木県	774	754	807	1,000	986	△1.4%
群馬県	901	833	977	1,143	1,010	△11.6%
埼玉県	2,324	2,501	2,730	3,304	3,055	△7.5%
千葉県	1,852	1,978	2,056	2,738	2,382	△13.0%
東京都	12,123	11,786	13,376	15,126	15,804	+4.5%
神奈川県	3,233	3,195	3,628	4,416	4,117	△6.8%
新潟県	999	976	1,107	1,112	1,165	+4.8%
富山県	483	430	544	576	562	△2.4%
石川県	453	425	526	580	612	+5.5%
福井県	366	366	389	442	475	+7.5%
山梨県	401	340	370	428	463	+8.2%
長野県	965	884	918	1,150	1,063	△7.6%
岐阜県	895	845	958	1,069	1,056	△1.2%
静岡県	1,502	1,524	1,620	1,941	1,939	△0.1%
愛知県	3,068	3,013	3,439	3,886	3,946	+1.5%
三重県	651	637	684	743	725	△2.4%
滋賀県	385	419	461	528	493	△6.6%
京都府	1,003	895	1,068	1,226	1,259	+2.7%
大阪府	3,604	3,491	3,849	4,400	4,411	+0.2%
兵庫県	1,620	1,647	1,765	2,094	2,144	+2.4%
奈良県	354	335	367	453	454	+0.2%
和歌山県	316	297	299	414	382	△7.7%
鳥取県	213	210	232	329	290	△11.9%
島根県	330	340	326	336	339	+0.9%
岡山県	823	741	860	958	940	△1.9%
広島県	1,202	1,194	1,354	1,543	1,407	△8.8%
山口県	524	561	577	735	619	△15.8%
徳島県	232	226	297	409	352	△13.9%
香川県	467	454	507	630	522	△17.1%
愛媛県	600	551	662	736	695	△5.6%
高知県	276	279	303	358	364	+1.7%
福岡県	1,819	1,627	1,769	2,005	2,033	+1.4%
佐賀県	304	307	290	314	367	+16.9%
長崎県	475	497	511	563	586	+4.1%
熊本県	660	586	572	863	876	+1.5%
大分県	402	375	477	535	508	△5.0%
宮崎県	444	479	470	602	577	△4.2%
鹿児島県	552	532	592	761	689	△9.5%
沖縄県	429	452	457	531	544	+2.4%
全国	54,709	53,426	59,105	69,019	67,949	△1.6%